

陸奥湾ラーバ調査の全データ

ほたてナビで速やか配信

報 3/31 (1)

水総研開発 効率的な採苗期待

青森産技センター水産総合研究所（平内町）は、陸奥湾産ホタテガイのラーバ（稚貝となる浮遊生物）調査の結果をウェブ端末で閲覧できるシステム「ほたてナビ」を開発した。調査結果はこれまで、週に一度発行する広報紙に湾内全体と20地区ごとの平均値を掲載していたが、ナビでは調査対象54地点の水深ごとに出現しているラーバの数などのデータを速やかに配信する。情報量を大幅に拡充し、効率的な採苗につながることを目指す。

している。調査は西湾、東湾、外ヶ浜町平館からむつ市脇野沢まで沿岸20地区の計54地点の水深（5㍍、10㍍、20㍍、30㍍）一地域を除く）ごとに行っているが、情報量が膨大で、全湾、西湾、東湾、沿岸20地区の平均値のみを掲載していた。

陸奥湾産ホタテを巡っては、親貝不足などで稚貝を十分に確保できない採苗不振や高温によるホタテ大量死で、生産量への影響が懸念されている。生産者から調査結果の情報量拡充と早期の周知を求める声を受け、水総研が採苗不振対策



猛暑の影響で多くの被害が出た陸奥湾の養殖ホタテ。今後に向けて稚貝の確保が大きな課題となっている＝2023年11月、平内町

の一環としてシステムを開発した。ほたてナビは3月15日にサービス開始。ラーバ調査

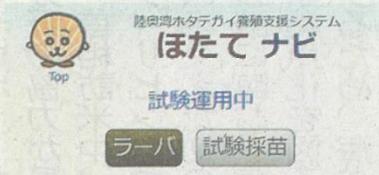
の全データが閲覧可能で、西湾、東湾、沿岸20地区の計54地点の水深ごとに確認できる。「200㍍未満」「200㍍以上」「260㍍以上」に分類して1立方㍍当たりに出現しているラーバの数や割合を表示しているため、生産者が採苗器を投入する時期や場所を判断する目安になる。

今後、稚貝の付着状況の調査や親貝の成熟度調査の結果なども順次追加する予定で、ホタテ養殖に関する情報を総合的に提供するシステムにする。

開発した水総研漁場環境部の高坂祐樹総括研究管理員は「ホタテ産業が厳しい中、不漁の時にいかに効率良く稚貝を確保できるかが生産者の課題だと思う。システムを最大限活用し、一つでも多く稚貝をつかまえてほしい」と話した。

（下山静香）

水総研は毎年4～5月の毎週月曜を基準に、卵からふ化したラーバの出現数や大きさを調べる「ラーバ調査」を実施し、その週の木曜に発行する広報紙「ホタテ採苗速報」で結果を公表



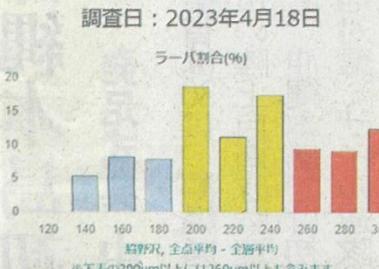
ラーバ情報

地区名: 脇野沢

基準日: 2023年04月17日

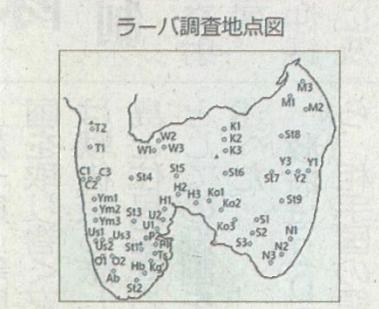
定点名: 全点平均

採水層: 全層平均



サイズ	出現数(個/m)	割合(%)
200μm未満	217	21.6
200μm以上	788	78.4
260μm以上	313	31.1

その他のラーバ	出現数(個/m)
ムラサキガイ	-
キヌマトイガイ	-



「ほたてナビ」の画面（青森産技センター水産総合研究所提供）

東奥日報社提供（令和6年3月31日掲載）

※この画像は、当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです